めいろうこどもえん　３月園だより

２０１９年度　年主題〈イエス様とともに生きる～愛の交わりの中で〉

0･1･2歳児３月主題　「大きくなる」

月のねがい

◎大きくなったことを喜ぶ　◎友だちの名前を覚え呼び合う
◎一人ひとりの成長を神さまに感謝する　◎外に出て春を感じる
◎一年間守って下さった神さまに感謝する(1.2)
◎自信を持って生活を楽しみ、新しい生活に憧れを持つ(1.2)
◎季節の変化を感じ、春を見つける(1.2)

3･4･5歳児３月主題　「かけがえのない」

月のねがい

◎ひとり一人が神さまに愛されているかけがえのない存在であることを感じる
◎神さまへの感謝、希望をことばや賛美で表す
◎アイディアを出し合い遊びを充実させ、満ち足りた思いをもつ
◎仲間と共に見通しをもって自分たちの生活を組み立てていき、新しい生活への期待をもつ

今月の聖句「あなたの若い日に、あなたの創造者をおぼえよ。」

伝道者12:1

2016年7月、世界を震撼させる事件が起こりました。相模原障害者施設殺傷事件です。一人の犯人によって、19人のいのちが奪われ、26人が重軽傷を負いました。犯人は「障害者は死んだほうがいい」と常日頃から発言し、実際にかつて勤めていた施設で殺人事件を起こしてしまいました。取り調べの際、「障害者の安楽死を国が認めないから自分がやった」と言ったそうです。二回の公判を経て、今月3月16日に判決が下ります。

裁判では、被害者を甲乙で呼んだことが物議をよびました。不服とした遺族が実名を名乗り上げました。さらに、被告が「価値がない」とみなした被害障害者について、その遺族が反論しています。「障害を抱えていても、あの子が生きていることだけで幸せだった」「その笑顔に救われた」「口もきけなかった我が子から多くの事を学び、教えられた」等…。どこからそういう思いが生まれるのか、分からないし、不思議でなりません。いのちの尊厳、差別のない社会、安心して生きていける世界、果たして本当にそのようなものがこの世にあるのだろうかとさえ考えさせられます。

そのような不安を抱える私たちに、聖書は語ります。「**あなたの若い日に、あなたの創造主を覚えよ**」と。この創造主は障害があるなしに関わらず、いのちを尊ぶお方です。ですから、そのお方を知っている者、覚えている者は自ずといのちを尊びます。どんないのちも、誰に対してもです。いのちの尊厳を語る時、例外なく誰もががかけがえのない存在

３月の行事予定

５日（木）	お別れ会･給食ﾊﾞｲｷﾝｸﾞ
６日（金）	**※弁当日**
９日（月）	役員会、監査
１０日（火）	絵本の会ラスト公演
１６日（月）	卒園式･父母の会決算総会
１９日（木）	修了式（1号:午前保育）
30（月）,31（火）	年度末休業日

４月の行事予定

４日（土）	始園式　・入園式 クラス会（親子で降園）
２５日（土）	親子遠足（※弁当日） 父母の会予算総会
２８日（火）	４月誕生会

※３・４月は諸事情により変更及び中止になる場合があります。

退職のお知らせ

篠山優佳保育教諭，小倉光博技師が３月末日をもって退職致します。皆様にはこれまで大変お世話になりました。今までのご支援に心より感謝申し上げます。

星とたんぽぽ

金子みすゞ

青いお空のそこふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、
星のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

ちってすがれたたんぽぽの、
かわらのすきにだァまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

1年間を振り返って･･

桜の花が咲き始め、春の訪れを感じる今日この頃。こども園の庭にも菜の花やシロツメクサが咲き始め、春めいて参りました。あっという間に忍者の１年も終わろうとしています。たくさんの行事での子どもたちの表情や成長も素敵な思い出のひとつですが、クラスに入った時の子どもたちの姿も私の思い出のひとつです。

こすもす組に入った日の給食時のこと。野菜が苦手だったり、お隣とのおしゃべりに気を取られて食事が進まないお友だちが数名いました。私は、「さあ！そろそろヨーグルトは先生が食べよう！！」と伝え少しせかしてみました。すると、周りの子たちが「ダメ！！」と、私が近づくのを阻止してきたのです。「みんな！○○ちゃんのヨーグルト見張ってて！そっちに雅代先生を行かせないから！」と。それでも、私はおもしろがって取りに行こうとすると一人はお友だちのヨーグルトを守り、一人は「早く食べて！」と応援し、「こっちは任せて！」とまるで町で暴れているゴジラを体で止めようとしているような･･そんな感じで本当に必死でした。子どもたちにとって、教室は自分の居場所であり居心地の良いところなのかな･･またそこにいるお友だちは大事な仲間だと感じているのでは･･と、クラスのまとまりを見て嬉しく思うことでした。一つになってきたクラス生活も残りわずかです。他にも子どもたちにしてあげられることが何かないかなと思いつつ、今年度の残りの日々を過ごしている保育者たちです。

今年も年長児の卒園の手形が出来上がりました。もちろん、みんなの思い出の巻物の形です。どうやら、くろとびさすけの手形もあるようです！年長児さんが卒園してからもずっとめいろうで遊んだこと、たくさんの経験を節目節目で思い出してくれたら嬉しいです。今年度もたくさんのご協力まことにありがとうございました。また、来年度もどうぞよろしくお願い致します。

森山

ひかりの子どもらしく　旅立ちの春

荒れる日も少なく、落ち着いた天候が続いた二月でしたが、何より今の心配事は新型コロナウイルスですね。こども園の運営も今後どうなるか心配なところです。この様な時こそ、いつものようにしっかりした食事と睡眠を取って免疫力を高めるよう心掛けてまいりましょう。一雨ごとに暖かみを増してくる季節。喜びと寂しさの織りなす短い日々を大事に味わいたいですね。

四月からは「学童期」と呼ばれる義務教育に入る年長さん。幼児期に芽生えた社会性が成熟していく時機です。人間はその文字が示すように、互いに支え合いながら人の間で生きていく生き物。人間関係そのものが人生ともいえるのでないでしょうか。関わり方の多少はありますが、どんな人でも他者との関係を通して自分の存在を実感できるのだと思います。「幼児期」は、まず安心感を育てる時です。なかなか友だちの輪に入れない子どもに不安を感じられた方もあったことでしょう。しかし、ほとんどは身近な人たち（とりわけ母親）に自分の気持ちや言うことをよく聞いてもらえると感じることで安心感が増し、先生や友だちと関わるようになっていくものです。精神分析医のエリクソンは、人間が勤勉に生きていくということの基盤は、「学童期に友だちから学び、友だちに教えるという経験によって成熟する」と言っています。友だちとの遊びやおしゃべりを通して、知識や経験、感情をたくさん共有することで、友だちや周囲の人に対して自発的、習慣的に関係を持つようになるということです。現代の子どもたちは、互いに教えあい学び合う機会を得られているのでしょうか。「交わりはすべてスマホから」だとしたら、本当に怖いことです。何が本当に大切なことかを真摯に伝える大人の責任を強く感じます。

「卒園の歌」の練習を聞きながら、この聖句を卒園記念の聖書に書き込んでいきます。一人一人の顔を思い浮かべながら筆を運ぶこの時間は、まさに至福の時です。個々の育ちの過程にしっかりと寄り添えることができたのか。自己肯定感が育まれるような言葉掛けができたのか。発達に最も大切な「あそび」が自由に探求できる環境が整えられたのか･･･。静かに内省する時でもあります。しかし、何よりも集団生活の中で、活動や行事を友だちと共に経験する機会をたくさん備えることができたことに感謝でした。

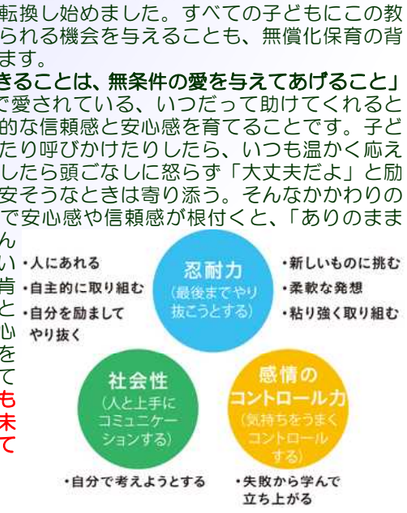
光は明るく、温かく私たちを照らし、希望を与え、愛の心を育ててくれます。私たちは、すべての園児たちがキリストの光に照らされ、「神様の子ども」として成長するようにと祈りつつ保育を行ってきました。多様化する時代にあっても、**一番大切なものは、いつも目に見えない**のだということを忘れずにいてほしいと願います。心優しいひかりの子

考える力を育もう･第２弾
～非認知能力～
３つの要素

２１世紀を生き抜く力といわれる非認知能力とは「正解のない問題に自分なりの答えを見つけて解決する力」のこと。そして解決に必要な能力とは、壁にぶつかったときにアイデアをいくつも出せる発想力、失敗から学んで挑戦する粘り強さのことです。日本もこの能力を高めるような幼児教育・保育へと方針転換し始めました。すべての子どもにこの教育を受けられる機会を与えることも、無償化保育の背景にあります。

「親ができることは、無条件の愛を与えてあげること」

無条件で愛されている、いつだって助けてくれるという基本的な信頼感と安心感を育てることです。子どもが泣いたり呼びかけたりしたら、いつも温かく応える。失敗したら頭ごなしに怒らず「大丈夫だよ」と励ます。不安そうなときは寄り添う。そんなかかわりの積み重ねで安心感や信頼感が根付くと、「ありのままでいいんだ」という自己肯定感が生まれ「がんばってみよう」という前向きの力になります。この安心感と、親に見守られてやりたいことをやる中で、非認知能力の基礎ができていきます。**子どもがやることを「おもしろいなあ」と楽しめたら、それが未来を救う知恵を育むことにつながっていきます。**



心理士：木口屋恵子